

身近な環境調査報告書

Survey of flora and fauna on local area in Shari

「身近な環境調査」の概要	中川 元	27
斜里川水系幾品川の水生昆虫	宇仁義和・亀井秀之	29
斜里平野の淡水魚	宇仁義和・増田 泰	37
斜里地方に生息する両生爬虫類相調査報告		
..... 佐藤孝則・宇仁義和・増田 泰		43
エゾモモンガ (<i>Pteromys volans orii</i>) の日周活動	増田 泰	53
エゾモモンガ (<i>Pteromys volans orii</i>) による巣箱利用	増田 泰	59
エゾモモンガ (<i>Pteromys volans orii</i>) の子育てと子の成長		
..... 増田 泰		63
エゾモモンガ (<i>Pteromys volans orii</i>) が越冬用に利用した営巣木		
..... 増田 泰		67
斜里町の絶滅危惧植物チェックリスト	内田暁友	71

斜里町立知床博物館 2003年3月

「身近な環境調査」の概要

館長 中川 元

Outline of the survey of flora and fauna on local area in Shari

NAKAGAWA Hajime

調査の背景と調査地、調査期間

知床博物館では昭和53年の開館以来、知床地域の自然や歴史に関する調査を進めてきた。これら調査は知床国立公園をはじめとする知床半島内の地質、生物、考古、民俗などの分野にわたり、各学芸員がそれぞれ専門分野のテーマで計画し、町内外の研究者の協力も得ながら実施された。これらの調査は「知床半島総合調査」と総称され、その成果は知床博物館研究報告に発表されたほか、特別展の開催や郷土学習シリーズなどの刊行物を通して普及、還元が図られてきた。一方、この総合調査の対象エリアが知床国立公園内など知床半島部に重点が置かれたことから、結果的に半島基

部に広がる斜里平野部や海別岳・斜里岳山麓部などの調査が不十分なまま経過した。また、学芸員が調査員として参加した環境庁や北海道などによる各種調査も半島部を調査地とするものがほとんどであった。半島部の調査データが蓄積される一方、半島基部のデータ不足を浮き上がらせる結果となっていた。

半島基部に重点を置いた「身近な環境調査」はこうした背景のもとに構想され、斜里町の第4次総合計画（平成8年度～17年度）の博物館部門に盛り込む形で計画された。「身近」というキーワードは「原生的（＝知床半島部）」と対比されるものであり、市街地やその周辺環境ばかりでなく、

河川流域や湿地、海岸林や耕地防風林など多様な環境を含む概念として用いたものである。河川を例に取ると古い時代からの河川改修等で流域の自然は改変され二次的自然の占める割合が多いが、人為的影響が少ない流域や自然回復が進んだ流域なども含まれている。森林についても二次林や人工造林地ばかりでなく自然林の占める割合が高いこともこの調査地域の特徴である。この調査は、水辺、小動物、緑地と3つのテーマにわけて、当初5カ年の調査が計画された。しかし、時間的制約などもあり、実際には報告書作成を含めて7年の期間を要しこのほど終了した。調査実施年次と主な調査内容は下記のとおりである

- 第1年次 1996年（平成8年）水辺の環境調査-1
- 第2年次 1997年（平成9年）水辺の環境調査-2
- 第3年次 1998年（平成10年）身近な小動物調査-1
- 第4年次 1999年（平成11年）身近な小動物調査-2
- 第5年次 2000年（平成12年）身近な緑地調査-1
- 第6年次 2001年（平成13年）身近な緑地調査-2
- 第7年次 2002年（平成14年）補足調査及び報告書作成

なお調査実施にあたり、直接参画いただいた亀井秀之氏、佐藤孝則氏をはじめ、ボランティアで援助いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

調査概要

①水辺の環境調査

淡水魚類調査は斜里川水系において現地調査を行い、調査は当館の宇仁義和、増田泰両学芸員が担当した。調査の結果移入種を含めて9科18種の魚類が記録され、移入種や希少種の生息について考察した。

水生昆虫調査は亀井秀之さんに参加をいただき宇仁学芸員も共に実施した。採集調査は1996年に斜里川支流の幾品川水系で実施し、翌年以降も標本の同定作業等を行った。種レベルの同定が困難なものもあったが、調査地別種類相と個体数の季節的変動を把握することができた。

両生爬虫類相調査は天理大学の佐藤孝則さんを中心に、現地調査には宇仁、増田両学芸員も参加し実施した。両生類調査では斜里川水系及び平野部の湿地や人工池、林道沿いなどを、爬虫類調査では温泉地域なども加えて実施し、生息種と生息地を明らかにした。また、斜里市街に近い湿地に生息するエゾサンショウウオの繁殖状況について

明らかにした。

②身近な小動物調査

小動物調査は小型哺乳類のエゾモモンガを対象に1998年と1999年を中心に実施した。調査は増田学芸員が担当し、斜里海岸林をフィールドに営巣木調査のほか巣箱利用調査を実施した。一部巣箱へはCCDカメラを設置し、巣箱利用個体の日周行動や繁殖について調査した。その結果、市街地に近い森林においてもかなりの密度でエゾモモンガが生息していることやその行動について明らかにすることができた。

③身近な緑地調査

緑地調査は斜里平野部の森林や草原、湿地の植生調査として内田暁友学芸員が担当し、2000年から2002年に実施した。その結果既存文献による知床半島産植物リストに加え多くの斜里新産種が確認された。本報告ではこのうち整理の終わった絶滅危惧植物についてまとめ、新産6種を含めた斜里町絶滅危惧植物チェックリストとして報告した。

おわりに

今回の「身近な環境調査」では水生昆虫、淡水魚類、両生爬虫類、小哺乳類、維管束植物相の調査を実施した。一方、地形地質、気象、陸棲昆虫類、鳥類、中・大型哺乳類、コケ類、菌類等の分野についての半島基部の調査は、短期的な調査や一部地域の資料の蓄積はあるものの、まとまった調査は近年行われていない。「身近な環境調査」の今後の課題として残された。また、今回の調査を通じて希少種の生息地など環境保全上重要な地域が半島基部にも存在することがわかった。これらの地域については今後も重点的に調査を継続し、なんらかの保護対策を検討して行く必要があると考えられた。

今後の知床博物館の調査活動の中で、知床半島部の調査はもちろん重要だが、今回の身近な環境調査で得られた知見と半島基部における諸課題を踏まえ、今後の博物館の調査計画を進めて行きたい。